官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）とは

仕 組 み

CSTIを司令塔として、各府省庁施策を民間研究開発投資誘発効果の高い領域又は財政支出の効率化に資する領域へ誘導するため、各府省庁が実施する施策のうち、研究開発の加速化を図ることが適当と判断した施策に対し、必要となる経費を内閣府より各府省庁へ追加配分する。

予 算

平成26年度に創設された「科学技術イノベーション創造推進費」から充当しており、平成30年度から、毎年100億円となっている。

PRISMと同じく司令塔機能を強化するための施策である「戦略的イノベーション創造プログラム」（Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program ：SIP（エスアイピー））も同推進費から充当しており、SIPとは連携して推進している。

ターゲット領域について

民間研究開発投資誘発効果の高い領域を検討するため、平成29年にターゲット領域検討委員会を設置し、5回に渡り検討。

平成29年4月の総合科学技術・イノベーション会議において、3つのターゲット領域を決定。

- サイバー空間基盤技術（AI／IoT／ビッグデータ）
- フィジカル空間基盤技術（センサ／アクチュエータ／処理デバイス／ロボティクス／光・量子）
- 革新的建設・インフラ維持管理技術／革新的防災・減災技術

ターゲット領域の決定を受け、PRISMに3領域を設置し、平成30年度から運用開始。

- 革新的サイバー空間基盤技術領域（領域統括：安西祐一郎）
- 革新的フィジカル空間基盤技術領域（領域統括：佐相秀幸）
- 革新的建設・インフラ維持管理技術／革新的防災・減災技術領域（領域統括：田代民治）

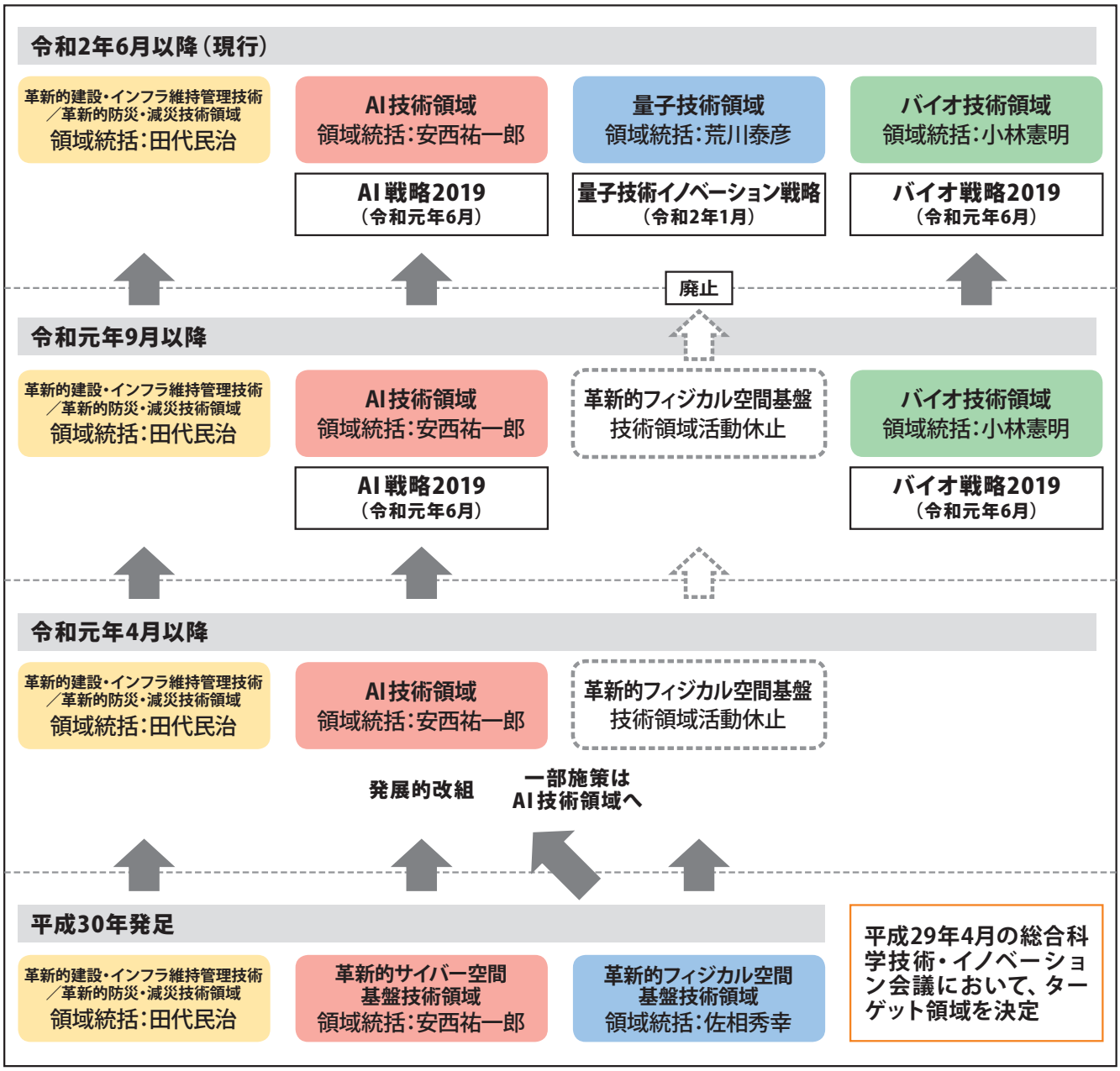
官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）とは

PRISM制度の見直しについて

平成30年度以降、PRISM制度の運用は機動的に実施しており、必要に応じ見直しを行っている。

- ターゲット領域については、必要に応じ見直しを行い、以下のように変遷。
- 制度の見直しにより、新たに「システム改革型」を導入し、従前の方式は「研究開発型」と呼称。
- 「研究開発型」は、統合イノベーション戦略に加え、統合イノベーション戦略推進会議が策定する各種分野別戦略を踏まえることにより、より明確な方向性をもって推進。

● ターゲット領域の変遷について



※令和元年6月、「AI戦略2019」、「バイオ戦略2019」策定。令和元年9月、バイオ技術領域設置。
※令和2年6月、量子技術領域設置。革新的フィジカル空間基盤技術の一環として実施することとしていた量子について新たに領域を設置したことに伴い、革新的フィジカル空間基盤技術は廃止。